【2022（令和4）年度 国民体育大会 第42回 九州ブロック大会（開催地：熊本県）】

競技上の注意と確認事項

1 競技規則

本大会は、令和4年度（公財）日本ハンドボール協会「競技規則」によって行う。

2 競技会場

（1）競技会場・コートの広さは、以下のとおりとする。

○【成年男子】菊池市総合体育館（40m×20m） ※空調あり

○【成年女子】山鹿市総合体育館（40m×20m） ※空調あり

○【少年男子】山鹿市鹿央体育館（40m×20m） ※空調なし

オムロン鹿陽センタ（40m×20m） ※空調あり

○【少年女子】オムロン鹿陽センタ（40m×20m） ※空調あり

※全会場ともに「松やに」の使用を禁止し、「両面テープ」のみ使用を認める。
※少年男子：鹿央会場は、空調施設がないため、当日の気温や湿度などの気象状況や館内環境を総合的に判断し、「給水タイム」を設定する場合がある。

（2）別紙「新型コロナウイルス感染防止ガイドライン(ハンドボール競技)」を遵守して使用する。

3 種別及び参加人数

参加人数は、役員4名以内・選手12名以内の合計「16名」以内とする。

4 競技方法

競技方法は、全種別ともにトーナメント方式とする。

なお、成年女子・少年男子のみ、第3代表決定戦を行う。また、決勝戦は行わない。

5 参加資格

参加資格は、令和4年度 国民体育大会 第42回 九州ブロック大会「ハンドボール競技」要項p25 5「参加資格」（1）～（4）のとおりとする。

臨時トレーナーについては、別に定める。 ※競技上の注意と確認事項「16」参照

6 競技日程・時間

（1）競技日程は、プログラムのとおりとする。

（2）競技時間は、全種別ともに下記のとおりとする。

「前半30分－休憩15分－後半30分」

なお、同点の場合は、延長戦を正規で行う。第1延長 ～ 第2延長 ～ 7mTC（5名）

（3）競技時間は、加算式の電光表示板を使用し、コート対角または対面で表示する。

（4）競技終了やチームタイムアウトの合図は、ブザー・ホーン、または笛で行う。

（5）①退場者の番号と入場時間は、「電光表示板で表示」する。

②入場の判断は、チームの責任である。記録席から合図することはなく、問いかけられても回答しない。

7 大会使用球　　（公財）日本ハンドボール協会検定球を使用する。
〇成年男子：両　日モルテン（ヌエバ X5000　H3X5001―BW）
〇成年女子：両　日モルテン（ヌエバ X5000　H2X5001―BW）
〇少年男子：1日目ミカサ（HB3000）　2日目モルテン（ヌエバ X4000　H3X4000）
〇少年女子：1日目ミカサ（HB2000）　2日目モルテン（ヌエバ X4000　H2X4000）

8 トス・ユニホーム
（1）トスは、ユニホーム確認の際に記録席前で行う。立ち合いは、チーム役員・選手のいずれでもよい。
その際、チーム役員の服装（色）及び臨時トレーナーの有無についても確認する。※11(5), 16(1)
（2）ユニホームの確認は、試合開始30分前に記録席前で行う。感染症予防対策として、前試合の前半終了直後に行わない。確認の際には、試合に着用する全ての種類のユニホームを持参する。
希望調整がつかない場合は、トーナメント表によるチーム番号の大きいチームが変更する。
（3）ユニホームについては、下記のとおりとする。条件に満たない場合は当て布等で覆わなければならない。
その色はユニホームと同色でなくてもよいが、チーム全員が同色とし、同じデザインにする。
① 前面に県名を表記する。大きさ・縦書き・横書きは問わないが，確実に目視できるものとする。
表記の仕方は、漢字だけでなく、アルファベット・ひらがな・カタカナ等を用いることは許される。
② 単独チーム名を入れる場合は、袖のみ表記可とする。
③ 番号の大きさ（高さ）は，胸10cm以上・背20cm以上とし、ナンバリングは1～12とする。
④ 基調色として、半分以上が同色でなければならない。例えば、左右上下対称色を用いたものは認めない。
⑤ 広告を表示してはならない。
⑥ メーカーのロゴは、20c㎡以内の目立たないものとする。サポーター等も同様とする。
⑦ 背に氏名・〇〇選抜等の文字表記をする場合は、大きさ（高さ）10cm以内とする。
⑧ 試合中にユニホームが破損したり、血液が付着したりして、競技を続行できない時は、別のユニホームに着替えなければならない。その場合、異なる番号でも問題ない。交代地域にいる別のプレーヤーのユニホームと交換することも許される。
⑨ チームは、ユニホームとして「シャツ・パンツ・ソックス」の色をそれぞれ統一すること。
ソックスは、色が揃っていればよく、メーカーのロゴなどは問わない。
（4）ゴールキーパー
①チームで同色とする。
②コートプレーヤーがゴールキーパーに代わる場合は、登録された同じ番号でなければならない。
併せて、登録されたゴールキーパーと同色のユニホームを着用することは許される。
（5）身につけられるものについて
① 短パンツの下に着用するサイクリングパンツやウォームパンツ（アンダーウエア）は、短パンツの基調色か同色とし、チームで統一していれば着用できる。
②ユニホームの外にアンダーウェアが出る場合があっても、立っている状態で見えなければ正さなくてよい。
③長袖のアンダーシャツ・アーム(ロング)スリーブ等は、ユニホームに使用されている基調色と同色であれば着用できる。
④ふくらはぎのコンプレッション(加圧)サポーターは、靴下と同色であれば着用できる。
⑤複数の部位を覆うサポーター等やメーカーのロゴが20㎠以上ものは、着用を認められない。
⑥金具入り等、敵味方を問わず他の選手に危害を与えるものについては、その着用を認められない。
⑦眼鏡及びスポーツゴーグル等を使用する際には、固定バンドの装着を必要とする。
ただし、金属製のフレーム等については使用できない。
⑧詳細は、JHAホームページ「JHA保護を目的とした装具」を参照すること。
（6）眼鏡・スポーツゴーグル
眼鏡及びスポーツゴーグルを使用する際は、固定バンドの装着を必要とする。
ただし、金属製のフレーム等については、使用できない。

9 登録証・公認資格証とチーム役員・選手の確認

(1) 事前に所定の手続きを完了した登録証のあるチーム役員・選手のみが競技に参加・出場することできる。

(2) 交代地域には、チーム責任者1名を含むチーム役員4名以内，選手12名以内の合計16名以内が入ることができる。チーム役員A（監督）以外にベンチ入りする役員は、トス時にエントリー申告する。

(3) チーム役員・選手の変更については、成年種別は8月25日（木）・少年種別は8月18日（木）までに、変更申請が完了したことで決定する。なお、変更申請の内容一覧については、成年種別は8月26日（金）・少年種別は、8月19日（金）に、メールにて配信周知する。移動中やホテルでも受信できるよう通信環境を確認しておく。

(4) ①トスの際には、TDに登録証を提出する。不備（写真添付なし等）があった場合は、試合に出場できない。
チーム役員A（監督）は、公認資格証も提出する。諸事情によりカード式の公認資格証がない場合は、電磁式資格証の写しでも可とする。
②TDが、試合前に交代地域にてチーム役員・選手及び登録証を確認する。
試合中は、TDが登録証を管理し、試合終了後にTDから両チーム代表者に返却される。
③失格したチーム役員・選手、または、裁定委員会に提訴されるチーム役員・選手には、その場で返却しない。

(5) チーム役員は、試合中に大会主催者が準備した「A・B・C・Dカード」を着用し、試合終了後に返却する。
チーム責任者は、「Aカード」を着用する。

10 公式記録用紙

(1) 記録は、（公財）日本ハンドボール協会「公式記録用紙」（ランニングスコアなし）を使用する。

(2) チーム責任者は、試合開始前に公式記録用紙に記載されている「役員氏名・選手氏名・背番号」など、責任を持って確認し、サインをする。

(3) 公式記録用紙に記入されている者だけが、交代地域に入ることができる。

11 交代地域 ☆交代地域：「3.5mラインを始点とし、センターラインから12mの範囲まで」

(1) 各チームのボール等の用具類は、競技開始前にケース等に収納して交代地域内にて管理する。
競技開始後は、ボールに触れることを含めてボールの使用を禁止する。

(2) 飲料水は、飲み口の細い「個人の容器」を使用し、コップの使用を禁止する。
感染予防対策として、大型ペットボトルの回し飲みも禁止する。

(3) 交代地域では、通信機器の使用を認める。
詳細は、JHAホームページ「交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン」を参照する。

(4) 試合中、選手が交代地域内で簡単な準備運動をすることは認める。
ただし、ボールの使用やコート内への指示・応援、立位のままで観戦することは不可とする。

(5) チーム役員は、相手チームのコートプレーヤーと異色の服装でなければならない。
トスの際、ユニホームの色が確定した後に、役員の服装の色を確認する。

(6) チーム役員は、原則として座っていなければならない。
ただし、チーム役員1名のみが、戦術的な指示や治療を目的として、交代地域の範囲内で動くことは許される。

(7) 観客席等から選手への指示や審判のジャッジに対する暴言等は厳禁とする。

(8) チーム役員は、試合時もマスクを着用する。試合に出場しない待機選手も可能な限りマスクを着用する。

12 チームタイムアウト

(1) チームタイムアウトの請求は、全試合 1 試合で3回請求することができ、前半後半にそれぞれ最高で2回まで請求することができる。また、後半の残り5分間は1回しか請求できず、延長戦は請求できない。

(2) チームタイムアウト請求カード（グリーンカード）は、チーム役員だけが提出することができる。
請求する場合は、記録席まで持参する。提出するために、コーチングエリア（3.5m）を越えたらグリーンカードを提出しなければならず、躊躇することは許されない。
ただし、請求および受け取りと判定のタイミングにより、チームタイムアウトにならない時があるので、その場合は、グリーンカードをチームに戻す。

(3) グリーンカードは、常にベンチに置いておかなければならない。請求する時のみ、持つことが許される。
(4) グリーンカードは、TDが直接受け取ってよい。

13 休憩時間（ハーフタイム）
(1) 前半が終了し、後半に向けてコートを移動する際には、前半使用した椅子（ベンチ）を消毒する。
後半の終了後にも同様に消毒を行う。感染予防対策を施した「新しい大会の運営」に全チームが相互協力する。
(2) 休憩時間のコート使用は、試合を行っている控え選手が練習に使用する。使用時間は「13分」とし、残りの時間は、後半に向けたコート整備の時間とする。感染症予防対策の観点から、次試合の選手が練習で使用することを禁止する。タイマーは、「13分の減算表示」とし、13分のブザー合図で速やかにコートアウトする。

14 テクニカルオフィシャル（マッチオフィシャル：MO、テクニカルデレゲート：TD）、裁定委員会
(1) 本大会は、各試合にMO1名とTD2名を配置する。MO・TDは、各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため、審判員・全競技役員・補助員と協力して試合を管理する。
(2) 本大会に裁定委員会を設置する。委員は、競技委員長・競技副委員長・審判長とする。
なお、必要に応じて関係者を同席させることがある。裁定しなければならない事案が発生した場合は、当日中に裁定して関係者に通知する。

15 次の試合のチーム役員・選手のフロアへの入場
次試合のチーム役員・選手は、前試合が終了し、両チームの役員・選手がコートアウトし、ベンチの消毒作業が終了後にフロアに入場する。

16 臨時トレーナー
(1) 臨時トレーナーとは、役員登録をしていない公的資格を有するトレーナーを指す。
トスの際には、必ずMO・TDに申告する。席は、交代地域から離れた場所に設置する。
(2) 臨時トレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることや応援・指示はできず、自席での対応のみとする。
選手は、一時的に交代地域から許可なく離れ、臨時トレーナー席で治療等を受けることができる。
(3) MO・TDが、試合開始前にトレーナーである資格証の提示を求める場合があるので準備しておく。

※各会場には、医療スタッフが常駐しているので、トレーナーを帯同させていないチームは、積極的に相談・活用して良い。

17 負傷者カード（成年男子・成年女子のみ）
(1) コート上で治療を受けたプレーヤーは、速やかにコートから出なければならない。その後、そのプレーヤーは、自チームが3回の攻撃を終了するまでコートに戻ることはできない。これを表示するために、負傷者カードを記録席に表示する。3回の攻撃が終了し、コートへ戻ることが可能になったら、このカードを取り除く。
(2) 延長戦を含めて前半・後半が終了したら、3回の攻撃回数が終了していなくても、次の開始時点からコートに 入場できる。

18 表彰
競技2日目の代表決定戦が終了後に賞状授与を行う。

19 感染症対策
別紙「新型コロナウイルス感染防止ガイドライン(ハンドボール競技)」（HP掲載済）を参照し、大会期間中は、手洗い・手指消毒・うがい等を積極的に行い、健康に十分配慮する。コート以外での施設内では、必ずマスクを着用する。また、施設内だけでなく、移動中やホテルでも消毒や検温ができる準備を各チーム・各自で行う。
自己管理・感染症予防のためにホテル滞在中は、各室でも個人的に感染予防に積極的に取り組む。
大会前から練習中はもとより、生活全般で体調管理に留意する。

(1) 競技中（試合中）、チーム役員は、必ずマスクを着用する。ベンチで待機する選手は、攻防で常に交代する選手を除き、可能な限りマスクを着用する。

(2) 万一の事態に備えて、「抗原検査キット」を各チームで準備することが望ましい。

(3) チーム役員は、感染症対策の責任者として、移動行程や会場での感染症対策の他、チーム関係者から発熱者や体調不良者が出た場合は、責任者の管理下でホテル待機、医療機関、検査機関の受診等の業務に対応する。

20　危機管理

各チーム・各個人で危機管理意識を高く持ち、各種の緊急事態に備える。

21　試合の開始と終了

開始時は、選手全員が交代地域から横1列で入場して、あいさつをする。

試合終了時は、コート中央に横1列で並んであいさつをし、その後、相手チームと交差しながら挨拶を交わすことはしない。相手選手とタッチ・握手も行わず、相手側交代地域で役員へのあいさつもしない。

試合後のあいさつは、役員同士のみとする。

22　入館・観客席

(1) 今大会は、スポーツ競技活動を通した社会活動の一場面でもある。各チームの役員は、「競技上の注意」「新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン(ハンドボール競技)」などを徹底させる。

(2) 今大会は、「完全無観客」で開催するので、事前申請された関係者以外の入館入場を認めない。

事前申請の上、入場が認められる者は、以下の通りとする。

①国体一次登録されて、試合時にベンチ入りしないチーム役員および選手

②各県ハンドボール協会の役員（会長・理事長・事務局長など）

(3) 上記（2）①②が、観客席から指示・声援することは禁止する。また、ラッパ・ホーン・口笛などの口腔で鳴り物を使用した応援も禁止する。

(4) 入館入場の際には、受付で開催（熊本）県ハンドボール協会が指定する各書類を提出する。

(5) チームの入館は「試合開始2時間前」、退館は「試合終了30分後」とする。

第1試合の入館時刻は、開催地から発出される「会場使用上の注意」を参照する。また、チーム関係者は、一斉入館・一斉退館を原則とし、観戦や撮影を目的として、個別に入館したり、観客席に残留したりしない。

(6) 競技会場内では、チームが使用した観客席（荷物）の管理、使用した観客席や更衣室などの消毒を行う。

(7) 競技終了後、観客席を退席（退館）する際には、チームで使用したエリアの椅子・手すり等を消毒する。

23　申込チームの欠場（辞退）の場合

(1) 欠場（辞退）による代替出場は行わない。

(2) 試合記録は、欠場（辞退）のチームの不戦敗とし、スコアは0－12とする。

(3) 競技日程・試合開始時刻などは、原則として変更しない。

24　大会期間中に発熱者が出場合

(1) 発熱・咳・咽頭痛などの症状を訴える役員・選手を確認した場合は、速やかに帰宅させるかホテルに待機させ、持参した「抗原検査キットで検査」を行い、医療機関・発熱外来などに相談する。

(2) 上記（1）を訴えた役員・選手からの聴取により、対面して食事をしたり、ホテルで同部屋だったりする等の接触があった者についても、その後の諸活動を中断させ、速やかに帰宅させるかホテルに待機させ、医療機関・発熱外来などに相談する。

(3) 上記（1）（2）により、現地や帰宅後に医療機関を受診した場合、即座にPCR検査の結果が出ないことが想定される。発熱者に対してチームが持参した抗原検査キットで「陽性反応」が出た場合、チーム内外に濃厚接触者が多く特定される可能性がある場合などは、チームとして、その後の参加（競技）を検討する。その際は、発熱者だけが抗原検査を行うのでなく、関係者全員が抗原検査を行うことが望ましい。

25　大会期間中の集団飲食について

（1）競技会場内での昼食・間食などは、チーム内であってもソーシャルディスタンスを保ちながら、会話を控え、対面飲食を回避するなど、感染症防止対策に十分配慮する。（黙食の推奨）

（2）宿泊時の夕食や朝食など、チームで飲食をする場合は、施設や店舗と事前相談の上、少人数・分散で飲食するなど工夫し、多人数・長時間の飲食にならないように十分配慮する。

26　新競技規則変更の適用について

（1）今大会は、「ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則」について適用する。

（2）（1）の詳細は、JHAホームページ「2022 新競技規則　変更の概要（2022 年 7 月 1 日　IHF　施行）」ならびに「2022（令和　4）年度　競技規則変更についての質疑に対する回答（第一次）」を参照すること。

（3）スローオフエリアは、使用しない。

（4）パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数は、6回とする。